

はじめに

—003

壹の巻 いにしえ

第一章 高札場界限

—011

—013

第二章 高札場へ

—014

第三章 七面堂の怪

—017

第四章 蚕影山祠堂

—019

第五章 蚕民騒擾録

—024

第六章 山伏の谷戸

—033

第七章 山伏は今、何処

—035

貳の巻 岡上村

第八章 鶴見川春秋

—041

第九章 飛地岡上

—043

第十章 自然村と行政村

—049

—051

第十一章 イツケ——同族集団

—054

第十二章 屋号と村落社会

—056

第十三章 ジンシルイとイツケ

—059

第十四章 講中と組合

—062

第十五章 宮野イツケ

—064

参の巻 戦争、そして戦後

第十六章 遙かなり、戦後五十年

—067

第十七章 それぞれの戦争体験

—069

第十八章 本土決戦

—074

第十九章 岡上被爆

—080

第二十章 穴掘帳

—084

第二十一章 農地改革

—088

—094

四の巻 年中行事

第二十二章 めかり婆の来る日

—101

第二十三章 滅びしものへの挽歌

—103

第二十四章 どんど焼き

—112

第二十五章 初午の行事

—118

—123

五の巻 三つの顔

- 第二十六章の章 岡上の二つの顔 133
- 第二十七の章 三つ目の顔 138
- 第二十八の章 逢坂山周辺 141
- 第二十九の章 『自性寺』の不思議 145
- 第三十の章 麗しき「水茎の岡上の里」 149
- 第三十一の章 岡上西町会 155

六の巻 坂と道と

- 第三十二の章 おんじよね坂 161
- 第三十三の章 幻の和光大通り 165
- 第三十四の章 道と街区と人びとと 169
- 第三十五の章 石造物への道 173
- 第三十六の章 東京湾岸道路 176

七の巻 食となりわい

- 第三十七の章 禅寺丸哀愁 183
- 第三十八の章 四つの世界 185
- 第三十九の章 農婦——問わず語り 189
- 第四十の章 家族——その現実 193

- 第四十一の章 林檎の丘 205
- 第四十二の章 蕎麦とうどん 208
- 第四十三の章 麦を喰え 214
- 第四十四の章 昼下がり、農家の庭先で 221

八の巻 地域社会と教育

- 第四十五の章 分教場——村の可愛い学校 225
- 第四十六の章 東と西の接点——通学路 227
- 第四十七の章 岡上文化センター 235
- 第四十八の章 揺り籠から墓場まで——生涯教育 242

九の巻 火の祭り

- 第四十九の章 一九九六年——平成丙子・一月七日 248
- 第五十の章 火の祭典——セエの神祭り・子どもの祭り 255
- 第五十一の章 一九九七年——平成丁丑・どんど焼き 257
- 第五十二の章 岡上は、今 260

〔補遺〕

- 門も塀もない『無流大学』、岡上の未来のために 283
- 後書きにかえて 294